

津高

津高校だより

令和2年度 第3号 編集・発行 三重県立津高等学校

後期がスタート、次なる目標に向かって

津高は10月5日から後期が始まりました。例年なら9月に行っていた文化祭を10月に移動し、体育祭はレク大に変更し、いつもと違った学校生活を送っています。各学年では1年の総まとめにむけて、特に3年生は初めての共通テストに向けて最後の追い込みへと向かっています。一人ひとり次なる目標を心に秘めて。(レク大の休憩)



9月8日 図書館探究講座2を開催

講演会「ビールは科学で生き物だ！」



「二軒茶屋餅角屋本店」21代目当主でありながら、「微生物好き」から「伊勢角屋麦酒代表取締役社長」となった鈴木成宗氏を講師に招き、ビールは発酵という科学であること、酵母の不思議さをお話いただいた。

「何か1つのことをやろうとしている」そんな人であるという言葉から講演が始まった。大学生活で自分を作り直そうと考え、「誰よりも努力すれば、人並みになれる」、「微生物愛 世界は遠くない」と思った生活を送り、家業の餅づくりでは飽き足らず、地ビールで世界を目指すことになる。世界になるためにまず行ったことは、目標設定としていつまでに何をするという日付設定である。明確なビジョンを具体的に描くことが重要と教えていただいた。また、国際審査員になることで、どの点を地ビールで評価されて、どこを研究すればいいのか理解できると考えたという。この講座を通じて、生徒たちは探究の楽しさ、追求することで得られる喜びを感じ取ってくれたと思う。

3年生学年集会 共通テスト出願

9月4日(金)3学年で学年集会を体育館に集まり、共通テストの出願について、進路指導主事の豊田先生から説明がありました。

今までの大学入試センター試験から変更となり、今回が共通テストの第1回受検となる。出願については学校からまとめて発送するため、全体での説明を行った。現役生である3年生は、初めて見る受験案内を真剣に見つめていた。記入する際によく間違えてしまう点を注意しながら、説明してくれた。卒業見込み者と卒業者は違うということから入り、名前や住所のカタカナの小文字は大文字に置き換えるなど、普段とは違う点を確認してくれていた。検定料の払込を行い、その払込票を貼付する必要があるが、今まで保護者任せにしていたので、確実に自分自身で行って欲しいと話していた。半年後に受験となるが、時がたつのはとても早



いもの。自主自律をここから実践して欲しいと思う。担任団の先生も緊張せずにミスのないように取り組んで欲しいと願っていた。

10月末には、生徒の出願内容に間違いがないかを確認するハガキが学校に届き、訂正がないかをチェックする。12月初旬には受験票が届き、受験会場が決定する次第である。今年度は津高校も一部受験会場となる予定である。

SSH山中伸弥教授オンライン講習会

「生命誌から生命科学の明日を拓く」

9月12日（土）地学室にて、SS先進科学として59名が集まり、講演会を聴くことができた。生徒はオンラインでの講演にそろそろ慣れてきている様子であった。全国的な中継で、また山中教授の講演会ということで、セッティングから緊張してる雰囲気でした。校内での司会はSSCのメンバーで行ってくれた。



生命誌研究館の永田和宏館長の挨拶では、高校生の皆さんにサイエンスの楽しさを知ってもらいたいために企画したと説明があった。山中教授の話は人の

体、生命の組織を作っている細胞の話から入り、ウイルスの内容に展開していった。細胞とウイルスの違いなど、とても解りやすく説明してくれた。コロナウイルスが何故新型といわれるのか、MARS や SARS の遺伝子と比較して説明してくれた。コロナ対策としてマスクをする理由について、飛沫感染から他人に広げないための山中教授の考え方も説明してくれた。iPS 細胞を使えば、体の細胞を作ることができ、パーキンソン病や心不全に対する細胞を増幅でき、現在臨床実験中であることも説明してくれた。

講演会の最後には質問タイムが設定され、全国の高校生から多数の質問が寄せられた。iPS 細胞をクローン細胞のように使うことはないのかとか、生命科学に進んだ理由は何かなど、高校生らしい質問がたくさんあった。最後には、「未来の科学者に何を望むか？」という問いに対して、「身近なことでできないことがまだまだたくさんある。世の中をより良い形に変えていける発見をしていって欲しい。」と山中教授はまとめてくれた。

部活動等の成果報告

■ 水泳部

・ 県高校新人水泳競技大会

男子総合 第6位

女子100m 第1位

女子200m 第1位

金山 愛和 選手（1年）

■ 書道部

・ 高校生国際美術展 書の部

辻 悠花（3年） 佳作

高橋 直弘（3年） 奨励賞

研究を成功させるコツ SS探究活動Ⅰ

10月8日に1年生の「SS探究活動Ⅰ」において、三重大学の和田正法先生（教養教育院）による「研究を成功させるコツ」の講義がありました。探究活動をすすめるうえでの研究の進め方、研究計画書の作成のポイントについて説明を聞きました。



研究では「発想力」と「批判力」が大切である。研究を進めるにおいて、テーマ設定がいかに面白いかが重要になる。班別に面白そうなテーマを5個以上出し合い、順位付を行った。

先生がそのテーマを聞き、実現可能かどうかを批判していく作業を行った。身近な例も示していただき、生徒たちの理解は深まり、今後の探究活動の基礎づくりができた。

商品開発について SS先端科学

10月13日（月）にSS先端科学として、井村屋株式会社開発部 荻原佳典先生にオンラインで講義をしていただいた。コロナ禍の中、直接井村屋に行くことができない状況であるため、ZOOMによるオンラインで実施しました。



井村屋といえば羊かんが思い浮かびますが、羊かんの売り上げを年代別にリサーチし、新しい販売路線を開発しようと模索した内容をきくことができました。若い世代にはスポーツ時の栄養補給とすることを推奨し、「えいようかん」が開発できたことや危機管理としての保存食として売り出した商品の説明を楽しく聴くことができました。